

2. リンドウの加温促成栽培における開花促進日数の目安（情報）			
[要約] 岡山県北部のリンドウの加温促成栽培において、7月上旬開花品種の加温最低温度10℃における開花促進日数は1月末開始で約40日、2月末開始で20～30日、3月末開始で5～10日で、加温最低温度5℃では開花促進日数がほぼ半減する。			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868- 57- 2758

[背景・ねらい]

リンドウは早期出荷を目的として全国的に加温促成栽培が行われており、主産県では加温基準に沿って栽培されている。しかし、岡山県北部の気象に適した加温基準はなく、農家の経験に頼っている。そこで、岡山県北部における加温の目安を作成する。

[成果の概要・特徴]

1. 加温開始日と開花促進日数には高い負の相関が見られた。また、加温最低温度10℃区に比べて5℃区は開花促進日数が約1／2であった（図1）。
2. 切り花品質は、加温最低温度5℃区と無加温区で差がなかった。一方、加温最低温度10℃区は無加温区に比べて草丈が低く、花段数と小花数がやや減少したが、商品性に問題はなかった（表1）。

以上の結果、岡山県北部の加温促成栽培において、7月上旬開花品種（おかやまオリジナル早生F₁リンドウ試作品種No. 96）は以下のような目安で開花が促進する。

加温開始	加温最低温度（換気開始温度）	
	5℃（20℃）	10℃（25℃）
1月末	約20日	約40日
2月末	10～15日	20～30日
3月末	0日	5～10日

[成果の活用面・留意点]

1. 農業試験場北部支場（久米郡久米町、標高約124m）における平成15年度のデータであり、春期の気温がより低い地域では、同様の加温方法で開花促進日数は多くなる。
2. 品種によって開花促進効果は異なり、開花期が遅い品種ほど開花促進日数は多い。

[具体的データ]

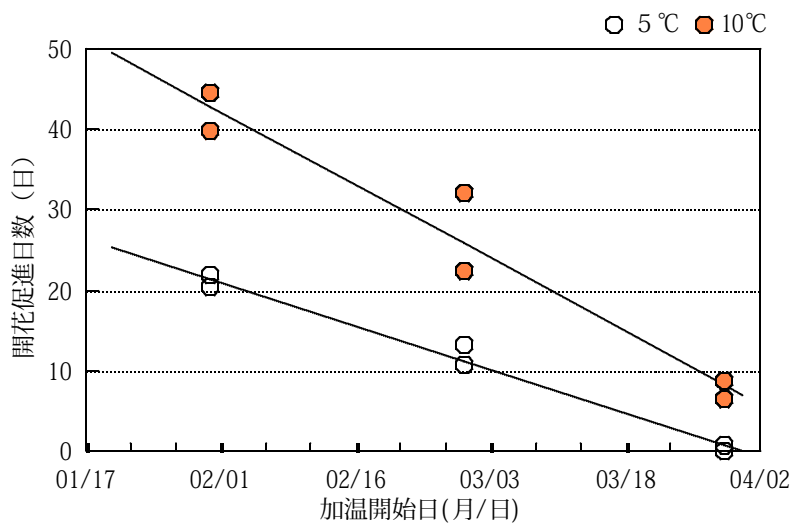


図 1 加温開始日と加温最低温度が開花促進日数に及ぼす影響

表 1 加温開始日と加温最低温度が切り花品質に及ぼす影響

加温日	温度	反復	開花日	草丈	節数	花段数	小花数	側枝数	茎径	切花数	良品数
			月/日	cm	節	段	輪	本	mm	本/株	本/株
1/31	5℃	①	06/15	100.0	22.0	9.0	64.7	5.3	5.3	7.0	3.3
		②	06/14	106.7	24.3	10.3	75.3	5.7	6.1	4.3	3.7
	10℃	①	05/27	95.3	23.0	7.3	29.3	0.0	4.6	5.0	3.0
		②	05/22	100.0	20.7	6.0	43.3	2.3	5.3	5.0	2.7
2/28	5℃	①	06/22	120.0	22.0	9.3	70.0	4.0	5.5	5.3	3.3
		②	06/25	108.0	24.3	10.0	72.0	4.3	5.4	5.0	3.7
	10℃	①	06/03	109.7	20.3	6.0	31.0	4.0	5.7	6.3	5.0
		②	06/13	112.3	24.0	8.3	56.3	2.7	5.9	4.0	3.7
3/28	5℃	①	07/06	115.5	23.0	8.0	40.5	0.5	4.4	6.5	4.0
		②	07/05	114.0	24.0	9.7	68.0	4.7	5.5	5.3	4.7
	10℃	①	06/27	111.3	21.3	8.7	73.0	5.7	5.3	6.3	4.0
		②	06/29	111.3	22.3	7.7	41.3	1.7	5.2	9.7	5.3
対照	無加温	—	07/05	107.8	23.4	9.4	58.2	5.0	5.5	6.8	4.8

良品：草丈70cm以上、茎径3.5mm以上

[その他]

試験研究課題事業名：中山間地域におけるリンドウ F₁ 品種の育成と出荷期拡大技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成14～18年度

関連情報等：平成14年度試験研究主要成果「リンドウの6月定植作型の生育促進のためのジベレリン処理（情報）」